

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	オーケストラと友に音楽祭開催事業	会計	一般会計	事業No.	790	施策順No.	27-003
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-5-7-11-7		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり	課等名			文化会館		
施策	27 文化芸術の振興	事業期間	開始	21	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	①飯田市民 ②クラシック音楽を愛好する人々						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		①飯田市の人口(人) (H22.10.1推計人口)		106630	105811	105036	107000	
	意図	①クラシック音楽を楽しめるようにする。実行委員となり主体的に企画運営できるようにする。 ②音楽レベルの向上を図る。演奏機会を持つ。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	①人口に対する音楽祭参加者数の比率(%)			5	5	5	5	A
	②音楽クリニックの受講者数			934	600	608	800	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	地元音楽愛好家が名古屋フィルメンバーから指導を受ける「音楽クリニック」を予想以上の参加者に受講してもらうことができた。また、名フィル「ポップスコンサート」「名曲コンサート」などの演奏会も多数の市民の皆さん楽しんでもらうことができ、目標を達成できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	市民主体の実行委員会が、プロオーケストラと協働して、音楽を楽しみ、学び、子どもと市民と地域へ広がっていく「オーケストラと友に音楽祭」を開催する。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<p>オーケストラと友に音楽祭実行委員会へ負担金を支出</p> <p>1. 実施期間 平成22年4月28日・5月1日～4日</p> <p>2. 共催楽団 名古屋フィルハーモニー交響楽団(指揮者:円光寺雅彦・ボブ佐久間)</p> <p>3. 実施概要</p> <p>(1)音楽クリニック:事前クリニックと会期中のクリニック及び成果発表会(クリニック:5月2日～3日) 地元アマ演奏者をプロオーケストラ団員等が指導 中学生吹奏楽・高校生吹奏楽・弦楽器初心者・弦楽器スタンダード・指揮者の各コース 名フィル演奏会の公開リハーサルにより、音楽が創られる過程を学ぶ</p> <p>(2)音楽クリニック成果発表演奏会(5月4日)</p> <p>(3)名フィルコンサート(ポップス:5月1日/クラシック:5月4日/文化会館ホール)</p> <p>(4)コミュニティコンサート(下伊那郡喬木村:5月2日、飯田市山本:5月3日)</p> <p>(5)そよ風☆コンサート(地元音楽団体参加企画・5月1、2、4日・3会場、4公演)</p> <p>(6)プレコンサート(四方恭子&占部由美子デュオ・リサイタル/4月28日/市公ホール)</p> <p>(7)その他(ここにこステージ音楽祭スペシャル:5月1日、交流会等)</p>	<p>実施企画数(件) 12件</p> <p>実行委員数(人) 72人</p> <p>オーケストラ関係者数(人) 99人</p> <p>実施企画参加者数</p> <p>(1)クリニック受講(人) (1) 910人</p> <p>(2)聴講・成果発表鑑賞(人) (2) 1,000人</p> <p>(3)名フィル鑑賞者(人) (3) 2,288人</p> <p>(4)コミュニティ鑑賞(人) (4) 700人</p> <p>(5)そよ風鑑賞(人) (5) 830人</p> <p>(6)プレコンサート鑑賞(人) (6) 380人</p> <p>(7)ここにこステージ(人) (7) 230人</p> <p>計 6,338人</p>	
23年度実施計画	<p>オーケストラと友に音楽祭実行委員会へ負担金を支出</p> <p>1. 実施期間 平成23年5月2日～5日・6月30日</p> <p>2. 共催楽団 名古屋フィルハーモニー交響楽団(指揮者:円光寺雅彦・ボブ佐久間)</p> <p>3. 実施概要</p> <p>(1)音楽クリニック:基礎クリニック、事前クリニック、会期中のクリニック及び成果発表会 地元のアマチュア演奏者をプロオーケストラ団員が指導 中学生吹奏楽・高校生吹奏楽・弦楽器初心者・弦楽器スタンダード・木管、金管、サクソフォンアンサンブル、指揮者の各コース</p> <p>(2)音楽クリニック成果発表演奏会(5月4日)</p> <p>(3)名フィルコンサート(ポップス:5月2日/クラシック:5月5日/文化会館ホール)</p> <p>(4)コミュニティコンサート(座光寺小学校体育館:5月3日 阿智村中央公民館:5月4日)</p> <p>(5)そよ風☆コンサート(地元音楽団体参加企画 アピタ高森店、川本喜八郎人形美術館、湯つたり一な昼軒:5月3日 文化会館:5月4・5日)</p> <p>(6)アフィニス・アンサンブル・セレクション(ウェン・シン・ヤン他/6月30日/飯田市公民館ホール)</p>	<p>実施企画数(件) 件</p> <p>実行委員数(人) 人</p> <p>オーケストラ関係者数(人) 人</p> <p>実施企画参加者数</p> <p>(1)クリニック受講(人) (1) 人</p> <p>(2)聴講・成果発表鑑賞(人) (2) 人</p> <p>(3)名フィル鑑賞者(人) (3) 人</p> <p>(4)コミュニティ鑑賞(人) (4) 人</p> <p>(5)そよ風鑑賞(人) (5) 人</p> <p>(6)プレコンサート鑑賞(人) (6) 人</p> <p>(7)ここにこステージ(人) (7) 人</p>	

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金				特定財源内訳、補足事項	その他財源2,500千円は(財)地域創造 平成22年度地域の文化・芸術活動支援事業助成金 事業費は、実行委員会への市負担金。
		県支出金					
		起債					
		その他	2,500	2,500			
		一般財源	8,500	8,500	11,000		
	計(A)	11,000	11,000	11,000			
	正規職員所要時間		1,000				
	臨時職員等所要時間		300				
	人件費計(B)		3,899				
	トータルコスト A+B		14,899				

4 事業に対する市民や議会の意見

1989年～2008年まで飯田市を会場に行われてきた「アフィニス夏の音楽祭」が、主催者のアフィニス文化財団との約束により20年を経過したために、他都市へ移ることになった。
市民の間に「アフィニスの成果を生かした音楽祭を新しく立ち上げていくべき」との声が多かったため、平成20年5月1日、市教委はこの事業を構想するための「新しい音楽祭を創る会」を設置して、市民28人に検討を委ねた。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠、特殊要因)	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	① 市民がいつでも誰でもどこでも気軽に文化芸術に親しむことができるようにする。② 市民が自己表現の機会を得られるようにする。③ 市民が活動を通じて文化活動を主体的に担うことができるようにする。	施策の成果指標又はムトス指標	文化芸術活動に無縁な生活をおくっている人の割合(%・減らす) 文化創造活動に自ら主体的に関わっている市民の数(人)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	名古屋フィルの演奏会のほか、多彩なコンサートを開催することにより、多くの市民がクラシック音楽に親しむことができた。音楽クリニックを実施し、地域で活動している音楽愛好家が名古屋フィルの楽団員から直接指導を受けることにより技術的、音楽的な向上を図ることができた。また成果発表を行うことにより自己表現の機会を得られた。市民主体の実行委員会が企画立案実施することにより、市民が文化活動を主体的に担うことが出来た。		
	後期に向けた課題	音楽クリニックを年間を通して実施することにより、市民が音楽に親しみ自己表現できる機会を充実させる。長期的な展望を持った音楽祭の展開について、実行委員会において市民を交えた検討を行い、実施していく必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	市民による実行委員会が3つの部会に分かれ、名古屋フィルとも相談しながら、市民が音楽を学び、親しみ、市民に広がっていく音楽祭となるよう内容を研究し、その結果を検証しながら改善をはかってきた。		
	後期に向けた課題	引き続き実行委員会において、市民や音楽愛好家のニーズを的確に反映した事業を企画立案実施する。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	印刷物など広報宣伝物に無駄が出ないように発注した。		
	後期に向けた課題	引き続きコストの削減に努める。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切 でしたか	4年間の振り返り	受益者は演奏会の入場者と音楽クリニックの参加者であり、入場料と受講料を負担している。入場料と受講料は、他の事業等との均衡を考慮して設定しており適切である。市は主催者として、施設使用料の減免と負担金を支出している。負担金は実行委員会が安定的に事業運営するための支援であり、決算状況から不利益額を市へ戻しているため負担の程度は適当である。また草創期であるため、事務局として一定程度の役割を担っているが、実行委員会主体の事業が円滑に実施できるようにするために必要な支援であり適切である。		
	後期に向けた課題	常に適切な受益者負担となるよう検討を継続していく。市民が、より主体的に事業を企画運営できるように働きかけていく。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果た しましたか。 ②その主体が役割を 発揮するために、行政はどのような働き かけをしてきましたか、又は、配慮して きましたか	4年間の振り返り	①主体は実行委員会、名古屋フィルハーモニー交響楽団、アフィニス文化財団である。実行委員会は、主体的に事業の企画、運営を担っている。名古屋フィルは、実行委員会の意向を踏まえた音楽クリニックとコンサートを実施している。アフィニス文化財団は、実行委員会への助言と資金援助を行っている。 ②市は事務局として、名古屋フィルハーモニー交響楽団やアフィニス文化財団との調整、音楽祭全体の進行管理を行い、音楽祭が円滑に実施できるようにしている。		
	後期に向けた課題	音楽祭の主体である実行委員が、充実感をもって活き活きと活動できる環境(雰囲気)づくりを行い、音楽祭の企画運営に積極的に関わってもらえるようにしていく。 「アフィニスのふるさと飯田音楽祭」として、アフィニス文化財団との連携、協力体制を維持していく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	アフィニス夏の音楽祭が飯田での開催を終え、オーケストラと友に音楽祭を新たに立ち上げた。2年間が経過し、オーケストラ音楽に親しむ市民層の拡大など市民の間に定着してきた。また音楽クリニックにより、市民の音楽レベルが向上してきた。		
	後期に向けた課題	アフィニス夏の音楽祭の成果も踏まえ、将来を見据えた「オーケストラと友に音楽祭のあり方」について実行委員を中心として多くの市民と検討し、音楽祭を媒介として、より多くの市民が集い、交流し、ともに楽しみながら音楽に親しみ、学びあえる音楽祭となるよう事業の充実を図る必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--